

テーマ：『臨床判断能力向上へ向けた「解剖生理学」講義の取り組み』

カテゴリー：②教育内容 ③教育方法

1. 学校概要：学校名 医療法人茜会 よしみず病院附属看護学院 3年課程

所在地：山口県下関市大坪本町 44-20、 1 学年定員数；40 名 就業年限；3 年

2. 内容：新カリキュラムの運営に関し、看護基礎能力強化に向けて、専門基礎分野「解剖生理学」の科目を看護実践と結びつけて学べるよう内容の改善を図った。

現行の「解剖生理学」の講義を依頼していた医師から、専任教員が教授することにした。

1) 専任教員の臨床経験からの専門性を活かし、担当を配分した。

2) 教授方法

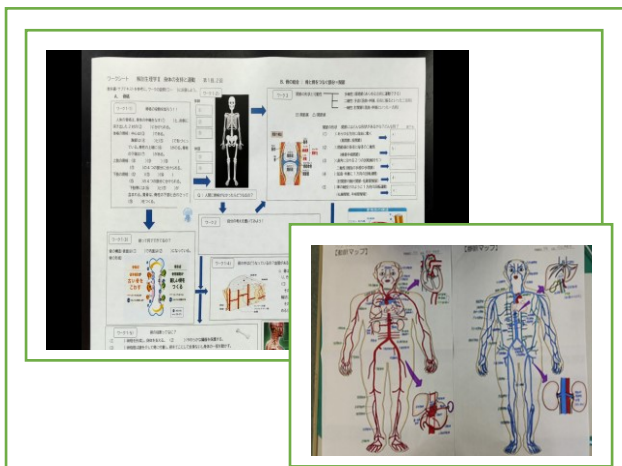
初学者に分かりやすく、まずは「解剖生理学」を好きになってもらうことから始めている。そのため教員は、教材準備を試行錯誤しながら行い、興味関心を引き出す方法を思案している。延いては、科学的根拠に基づいた臨床判断能力を養う方向づけへと導き、看護に活かせる知識体系を整理することで、実践に役立てようとの思いで取り組んでいる。

3) 教授方法の工夫

(1) 身体の知識を看護実践に活かすような構成；ワークシートの作成 図 1

(2) 各単元がアセスメントにつながるような枠組み；マインドマップの作成 図 2

(3) 学生が興味関心を示し、主体的に学修に臨めるようになる；展示物の作成 図 3



▲ 図 1 「身体の支持と運動」「血液の循環とその働き」ワークシート ▲ 図 2 「身体の支持と運動」マインドマップ



▲ 図 3 展示物の工夫 ▲

3. 実施した教員の感想：教員同士で教材を共有し、学生がいかに興味を持ってくれるか試行錯誤しながら教材準備をしている。学生が、解剖生理学で修得した知識を看護実践に活かされるか、今後の教育効果を期待している。